

「全国学力・学習状況調査」の状況報告

4月22日に、小学校6年生と中学校3年生の全員を対象に行われた「平成20年度全国学力・学習状況調査」の結果が8月29日に文部科学省から送付されました。高浜市の状況をお知らせします。

問合せ先 教育委員会学校経営グループ
☎52-1111(内線350)

1 教科に関する調査の結果

小学校・中学校の各教科の学習領域で、「良くできていた領域」と「課題がある領域」を挙げ、その領域での主な内容を示します。(○…良くできている内容 △…努力が必要な内容)

(1) 小学校

ア 国語

○「話すこと・聞くこと」

- 話し手の意図を考え、反応を示したり、内容を深めたりして聞く

○「言語事項」

- 5年生までに配当されている漢字を正しく読む

△「書くこと」

- 目的に応じて必要な情報を取り出して、効果的に書く

△「読むこと」

- 二つの物語文の冒頭部分における登場人物の特徴をとらえる

イ 算数

○「数と計算」

- 小数と整数の除法の計算をする
- 十進位取り記数法について理解している
- 情報を整理選択し、筋道を立てて考え、示された判断が正しい理由を記述する

○「量と測定」

- 重さについての感覚を身に付けている

○「数量関係」

- 円グラフを読む
- グラフの特徴を基にグラフの対応を考え、与えられたグラフが誰のものかを判断する

△「図形」

- 円周率の意味について理解している
- ひし形、二等辺三角形の定義や性質について理解している

(2) 中学校

ア 国語

○「話すこと・聞くこと」

- 話の構成に注意しながら的確に聞き取る

○「言語事項」

- 配列・配置に注意して書く
- 辞書を活用して、漢字が表している意味を正しくとらえる

△「書くこと」

- 資料に書かれている情報の中から必要な内容を選び、伝えたい事柄が明確に伝わるように書く
- 文章に表れているものの見方や考え方について、四字熟語を手がかりにして理解し、説明する

△「読むこと」

- 論理の展開の仕方に即して、内容を読み取る
- 文章の展開の仕方を読み取る

イ 数学

○「数と式」

- 二元一次方程式の解の意味を理解している
- 問題場面における考察の対象を明確にとらえている

○「数量関係」

- 事象の起こり得る確率を求める
- 言葉で表された式の特徴から数学的な意味を考え、事象を式の意味に即して解釈する

△「図形」

- 図形の一部と対象の中心が与えられたときに、点対称な図形を完成する
- n 角形の内角の和を求める公式の意味を理解している

(3) 今年度の傾向について

今年度は問題の難易度が上がり、正答率はかなり低下しました。活用力に問題があるという傾向は昨年度と同じです。これらのことは全国的な傾向と同様の結果です。

2 質問紙調査の結果

小学校・中学校別に、全国と比較して割合の高いものと低いものについて代表的なものを示します。

(1) 小学校6年の状況

【割合の高いもの】

- 「総合的な学習の時間」の勉強が好きである。
- 「総合的な学習の時間」の授業では、新しいことを発見できると思う。
- 算数の勉強が好きである。
- 算数の授業で新しい問題に出会ったとき、それを解いてみたいと思う。
- 算数の問題の解き方が分からないときは、あきらめずにいろいろな方法を考える。

【割合の低いもの】

- 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に勉強している。
- 学習塾で勉強をしている。
- 今住んでいる地域の行事に参加している。
- 近所の人に会ったときは、あいさつをする。
- 新しく習った漢字を実際の生活で使おうとしている。

(2) 中学校3年の状況

【割合の高いもの】

- 携帯電話で通話やメールをしている。
- 家で学校の宿題をしている。
- 「総合的な学習の時間」の勉強が好きである。
- 「総合的な学習の時間」で学習したことは、普段の生活や社会に出たときに役立つと思う。

【割合の低いもの】

- 土曜日や日曜日など、学校が休みの日に勉強している。
- 家の人と普段(月～金曜日)、朝食を一緒に食べている。
- 家で自分で計画を立てて勉強している。
- 家で学校の授業の復習をしている。
- 近所の人に会ったときは、あいさつをする。

3 検査結果を受けて

教科に関する結果について見てみますと、小学校・中学校とも国語では、主として知識を問う言語事項と聞き取りに関する内容がよく身につけていると言えます。しかし、書くことや読むことなど活用する力に課題があることがわかります。算数においては図形に課題があるものの、小学校では、数と計算、数量関係について、中学校では数と式、数量関係について理解が進んでいます。これらの結果は、市全体の傾向であり、各学校によって課題は異なってきます。各学校で結果を分析して課題を明らかにし、現在取り組んでいる対策を検証しながら、今後の学習指導に生かしていきます。

質問紙調査では、小学校・中学校とも「総合的な学習の時間の勉強が好きである」と回答した児童生徒が多くありました。これは、各学校の工夫により魅力ある総合的な学習の時間の授業が展開され、児童生徒がその学習に満足していることを示しています。また、小学校では算数の学習に関して、好意的な意見を寄せている割合が高く表れました。少人数指導の定着に伴い、算数好きな児童生徒が増えていくと考えられます。一方、学校が休みの日に家庭で勉強する割合や、近所の人に会ったときは、あいさつをする割合が低くなっています。これらの結果を受けて、今後とも家庭や地域の方々との連携を深めながら、児童生徒の健やかな成長を図っていきます。

この調査は、小学校6年生と中学校3年生のみの調査であり、また、学力も国語と算数・数学のみの調査です。子どもたちの全ての学力や生活の様子を表しているわけではありません。そのことを踏まえた上で、この調査結果を今後の指導に生かしていきたいと考えています。